

第2回富山県漢方フォーラムから

2012年1月29日に上記フォーラムが下記の演者らの講演で行われましたが、今回は方剤別にして各講演者の話題が分かるような表にしてみました（なお、方剤の順番は柴原医師の繁用される方剤として講演順に準拠しており五十音順ではありません）。

- ①柴原直利教授（富山大学和漢医薬学総合研究所）「繁用処方と薬情提供」
- ②清水正博氏（富山県立中央病院薬剤部）「当院における漢方エキス剤の処方状況」
- ③増田晶彦氏（つきおかつばさ薬局）「在宅患者における漢方薬エキス剤の症例」
- ④野村秀一氏（株式会社ツムラ）「いろんな生薬～いろんな事情」

方剤名	講演	特徴など
葛根湯	①	<ul style="list-style-type: none"> ・表証（悪寒、悪風、関節痛、頭痛、項背のこわばり等）の治療が基本。 ・うつ治療における断眠療法後の眠気に対して興奮剤として利用（主に麻黄による興奮作用が関与）。 ・添付文書上の葛根湯エキスの使用上の注意も麻黄に含まれるエフェドリンによる交感神経興奮による部分が多い（狭心症、高度の高血圧、排尿障害、甲状腺機能亢進症への注意など）。
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう患者用に懸濁して使用する際、残渣が残り易く注射筒で吸い込みにくいが「とろみ剤」を少し添加するとうまく懸濁できる（まず懸濁し、次いでとろみ剤を入れる順にしないとダメになる）。
大建中湯	①	<ul style="list-style-type: none"> ・冷えに伴う腹部膨満に使用されるが、外科領域で術後イレウス予防によく利用される。但し、漫然と延々と処方され続ける印象がある（必要ない例もありという言外の意味か？）。 ・構成生薬の乾姜と人参は亢進した腸管運動を抑制し、山椒と膠飴は低下した腸管運動を亢進させ、全体として腸管運動を調整させる。 ・膠飴に含まれる二単糖が腸内細菌で代謝され二酸化炭素などのガスが発生し腹部膨満の副作用が出る可能性がある。 ・肝障害の副作用はアレルギー性と考えられている（再投与ですぐに再発）。最近、間質性肺炎の報告あり（併用薬多数ではあるが）。
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・懸濁性は良い。
芍薬甘草湯	①	<ul style="list-style-type: none"> ・「こむら返り」などへの即効性を期待して使用される。5分くらいで効果がでる。 ・代表成分である芍薬のペオニフロリンや甘草のグリチルリチンなどは血中に30分くらいしてからで現れるので、それらの成分が即効性の筋弛緩に関与はしていないと言われている。 ・有効性の持続時間は約3時間程度とされているので予防的投与で寝る前に投与すると午前2～3時に効果が切れて、そこから「こむら返り」が起こる可能性もある。そのため発作が起きてから飲むのが筋だろうと考える。

回覧

	②	<ul style="list-style-type: none"> ・肝硬変・肝癌の場合に「こむら返り」が出やすいので利用される。 ・抗がん剤治療で引き起こされる「しゃっくり」に対して利用される（横隔膜のけいれんを抑える）。タキサン系の抗がん剤による末梢神経障害のしびれに対して利用される。
抑肝散	①	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状（物忘れ）への効果はない。周辺症状である興奮性症状に対してエビデンス（2～4週で効果が出始める）がある。 ・最近では本方剤が認知症の薬という評判があるので、イライラ感などにも利用される場合で本剤処方により自分は認知症かと思う微妙な年頃の人には服薬拒否につながる場合もあるので説明のフォローが必要。
加味逍遙散	①	<ul style="list-style-type: none"> ・気逆や瘀血の処方で、添付文書の適応症には女性への適応が多いが、実際には男性への利用（たとえば手のかゆみ・皮膚湿疹）もある。薬情の文章など男性への気配りが必要な方剤の一つ。
牛車腎気丸	①	<ul style="list-style-type: none"> ・腎虚に対する方剤。痛みに対する QOL を上げる目的で使用される場合も多い。 ・痛みの強い場合は附子末を増量するが、成分アコニチンは酸性条件でよく抽出される。方剤の成分である山茱萸は液性を酸性に傾かせる性質があるので、場合によってはアコニチンの効果を高めすぎる可能性がある（実際には自分はアコニチン中毒を経験したことはない。他医での話として1例聞いた程度）。 ・副作用として間質性肺炎が知られている。息切れや痰のない咳き込みなどが初期症状。アレルギー性と言われており、薬剤性の間質性肺炎は発見が早ければ治癒可能なので、初期症状を見逃さないことが大切。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢のしびれや頻尿、さらに耳鳴りなどへ利用される。抗がん剤パクリタキセルやオキサリプラチンなどを使用した際に出るしびれ（末梢神経障害）に対しても使用される。
	④	<ul style="list-style-type: none"> ・桂皮は樹皮そのもので局方品。桂枝は小枝をそのまま刻んだもので局方外品。
防風通聖散	①	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満に伴う頭痛、肩こり、いらいら感などに利用される。随伴症状が無くなると共に体重も減少してくる傾向がある。しかし、随伴症状が無くなり体調が良くなると食欲も出て、反って体重が増加して服薬前以上になるケースも経験している。薬で体重を減らすというのは考えない方が良く私は思っている。 ・OTCで販売されている本方剤エキスの有効性成分含量は医療用のその約半分程度なので、OTCから医療用へ切り替える場合は1日2回からなど用量を考慮する必要があるかもしれない。
十全大補湯	①	<ul style="list-style-type: none"> ・癌の転移予防へのエビデンスがある。免疫能の亢進などもあるが、体調を良くする事で延命効果が上がるのだと考えられる。 ・地黄が入っているため、それによる胸やけや胃もたれの副作用が出る場合がある。特に高齢者では頻度が高くなるのでチェックが必要である。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・術後の体力の改善効果。抗がん剤による血液毒性の軽減のために利用される。
半夏瀉心湯	②	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤であるイリノテカンによる下痢、嘔吐、口内炎などに利用される。
六君子湯	①	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性胃腸症に対するエビデンスが示されている。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤であるシスプラチンによる食欲不振に利用される。
	③	<ul style="list-style-type: none"> ・懸濁性は良好。
加味帰脾湯	②	<ul style="list-style-type: none"> ・処方例は少ないが、抗がん剤による血小板減少症に利用される場合がある。